

行政視察報告書

令和8年 2月 28日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員

加納 義之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 長浜市議会 会派新しい風 鹿児島市・南九州市・指宿市行政視察
2. 視察期間 令和8年2月16日(月)～18日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①鹿児島市：南部清掃工場
ごみ焼却施設とバイオガス化施設からなる先進的な循環型施設の視察
 - ②鹿児島市立天文館図書館
市街地の新しい公共空間で賑わい創出に寄与している。
 - ③南九州市：南九州市文化財保存活用地域計画協議会
文化財の保存について
 - ④鹿児島県指宿市：山川発電所
クリーンな発電方法の地熱発電について
4. 調査内容感想等
 - ・視察の目的
 - ① ・南部清掃工場は、「焼却+発電+バイオガス活用」を実装した先進的な循環型施設である。先進事例を視察する。
 - ② ・中心市街地の新しい空間として複合施設内にあり、地域の賑わい創出につながっている公共空間としての施設を見学

- ③ 何代にもわたり育んできた文化遺産が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて以来、35年を迎えるが今後後世に残していくための市行政や地域住民の活動を視察。
- ④ 地熱発電という自然の力を利用した発電方法で、国内の資源を有効に活用している施設を視察。

・視察内容

- ① 焼却+高効率発電：ごみ焼却時の熱を利用して発電を行い、余剰電力は売電している。廃棄物処理を「処分」だけでなく「エネルギー創出」として位置づけている。
 - ・先進事例であるバイオガス活用：生ごみ等を乾式高温メタン発酵処理し、バイオガスを生成している。都市ガス原料として供給する仕組みも導入している。
 - ・循環型社会・脱炭素への対応として、廃棄物処理と再生可能エネルギーを組み合わせた循環型施設のモデルである。
 - ・発電量は一般家庭数千世帯分の規模で、売電収入は、年間約3億円規模である。またガス供給も実施している。
- ② 鹿児島市立天文館図書館は、繁華街・天文館の中心にある「新しいタイプの都市型図書館」で、カフェ併設・予約席・子ども向けスペースなど、多様な利用スタイルに対応した開放的な公共図書館で、天文館電停の目の前、再開発ビル「センテラス天文館」内にあり、買い物や仕事の合間に立ち寄れる利便性の高い立地である。また図書館の真ん中にカフェがあり、購入したドリンクを館内の好きな席で楽しめる。子どもが遊べるスペースや、丸い土管型の読書スペースなど遊び心ある設計になっている。学習・仕事向けの席が多く、静かに集中できる。Wi-Fi完備や予約席があるため、確実に作業スペースを確保できる。日本初導入のセルフ貸出機があり、本を置くだけで貸出手続きが完了する最新設備で行列に並ばずスムーズに利用できる。
- ③ 知覧伝統的建造物群保存地区は、「町並み保存の仕組み」「景観の統一」「住民参加」「観光との両立」の4点に関して、長浜市のまちづくりにも応用できる“学び”ができた。知覧は「美しい町並みが偶然残った」のではなく、明確な保存ルールと住民の合意形成によって維持され

ています。建物の高さ・屋根材・外壁色の規制生垣・石垣の維持管理ルール・新築・改修時のガイドライン・行政・住民・専門家の役割分担・保存地区の指定に至るプロセスがある。

- ④ 再生可能エネルギーの現場を体感できる貴重な機会であった。日本でも珍しい地熱発電の実物を見学し、地域資源（温泉・火山）を活かしたエネルギー政策の成功例として参考になった。山川発電所は、発電出力3万kw（約6万世帯分）を発電。また地熱発電所が、観光資源にもなっており、地熱・観光・地域資源活用の良い例である。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

- ① 長浜市では、米原市と一部事務組合で共同し、将来的に焼却施設の更新とバイオガス化発電を行う予定。今後、費用負担、意思決定、責任分担を明確化するなどの共同運営の管理体制を構築しなければならない。またバイオガス化・発電の採算性や売電収入の取扱い・住民理解と環境対策など課題が残る。
- ② 天文館図書館は「長浜市の図書館再編・中心市街地活性化」の両面で“参考になる部分は多いが、そのまま導入は難しい”。特に滞在型・カフェ併設・予約席・子ども空間といった“使われる図書館”の設計思想は、長浜市にとって大きな天文館図書館は、単なる図書館ではなく、「街の回遊を生む拠点」＋「長時間滞在できる公共空間」として設計されている。これは、中心市街地のにぎわい創出・若い世代の利用増・公共施設の価値向上を同時に達成するモデルで、長浜市でも応用可能である。長浜市も黒壁周辺の回遊性や中心市街地の活性化が課題になりやすいため、方向性は合致していると思う。若者・ビジネス層・観光客が滞在しやすくなるので、長浜駅前や黒壁周辺に導入すれば、回遊性が高まる。また、長浜市は子育て世代の流入が多く、「子どもと一緒に行ける公共空間」は確実に需要があると思われる。商業施設との一体化で“にぎわい”を生むと思う。長浜市でも黒壁スクエア・長浜駅前再開発・まちづくり会社との連携などと組み合わせれば、図書館が“街のハブ”になる可能性が高い。
- ③ 知覧は、住民の暮らしと歴史景観が調和した全国屈指の保存地区。長浜市でも、景観ルールの明確化・住民参加・観光との両立を進めることで、歴史を生かしたまちづくりをさらに高められる。
- ④ 地域資源を活かしたエネルギー政策の可能性はある。長浜市は、地熱はないものの、地域資源をどう産業化・観光化するかという視点は共通である。

山川発電所は、地域資源を活かした産業・観光・教育の融合モデルとして非常に学びが多い。長浜市の地域資源活用や公共施設の多機能化を考える上でも、視察した価値は十分にあると思う。